

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館 第1ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	令和3年2月8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0172000887-00&ServiceCd=320
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性が強いので、職員間で情報を共有して、個々の性格や特徴を理解し、要望に添える事ができるよう努力している。個々の能力を活かし、現状を維持できるよう「できること支援」に力を入れている。
又、今年はコロナで外出も面会もできず、ストレスも多かったと思うが、ご家族からの電話や手紙、差し入れなどで多くの協力を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ふきのとう東館」は、JR駅から車で5分ほどの高台にある住宅地に立地している2ユニットの事業所である。敷地内には同法人の3ユニットグループホームが隣接している。当事業所は開設16年目を迎え、地域における一市民として当たり前のように暮らす理念に沿って地域と支え合う関係、住民との交流を継続して行っている。町内会とは運営推進会議、避難訓練、行事などを通して関係を築き、地域行事の際には中学生の協力や高校生の体験学習、ボランティア来訪での催しなど利用者は外部者と触れ合う機会が多い。今年度は感染症流行のため外出や外部者と交流する機会はないが、見晴らしの良い事業所前の公園で散歩や花見をして外気浴を楽しんでいる。外出制限がある中で、テイクアウトや手作り料理、おやつ類などで食事が楽しめるように提供している。また体操や移動動作で自立面を維持し、ゲームや創作活動を通して利用者の個別の意向に沿って楽しみごとを工夫している。職員は主治医や法人の看護職員の下で学びながら看取りケアを行い、また家族の思いに沿って何ができるかを関係者で話し合い、自宅で最期を迎えた事例もある。利用者や家族の個別の思いを汲み取って作成した介護計画をもとに、職員はその人らしい過ごし方を柔軟に考え日々温かな姿勢で利用者へ接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきながら対応している。今年はコロナの影響で敬老会は開かれなかったが、1名対象の方がおり、お祝いの品が届く。例年参加している桜中学校の文化祭には参加できなかった。	地域の中で一市民として過ごし、その人らしさを支えるという理念を掲げ、住民との交流を積極的に実践している。ユニットごとの会議や年間のケア目標を見直す際に理念を確認している。職員は掲示してある理念を意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、コロナの影響で毎年恒例の潮見が丘神社の獅子舞に来て頂けなかった。避難訓練、夏祭りも今年は、近隣の方に案内を出せなかった。ヤクルト販売には来て頂き、外で受け渡しを行っている。	普段は町内会や地域行事、また事業所行事を通して住民と交流し、ボランティアや高校生と触れ合う機会もある。感染症流行前には小樽雪あかりの路の開催時に中学生による雪像造りや、またボランティア来訪での催しも楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	明峰高校の体験学習、及び地域住民の方々の避難訓練の見学等、今年はコロナの影響で行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年1月に運営推進会議を行ったが、その後は会議を行う事ができず、不定期だが年6回、取り組み、状況等を資料にまとめ、委員の方々に送付している。	今年度は書面報告とし、利用者の状態、献立内容、消防設備のチェック状況、避難訓練などについてまとめ、推進委員に送付している。また事業所の感染症予防対策を別紙にして全家族にも送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新しい入居者の情報提供に協力を頂き、連携を取りながら対応している。	変更届などの書類提出は、市役所に出かけて直接担当者に渡している。市の調査で感染症予防のマスクなど備蓄用品についてのアンケートに協力したり、何かあれば電話やメールで確認することが多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、権利擁護委員会で話し合った内容、情報については、ユニットミーティングで全員が周知し、身体拘束をしない対応をしている。	法人事業所の各ユニット代表と役職者で権利擁護委員会を開催し、内容は職員に周知している。研修では具体的な禁止行為の確認や、勉強会の中で毎回言葉遣いについて話し合い、利用者の身体的、精神的な抑制にならないよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護委員会で身体拘束と同様に虐待についても話し合いを行っている。虐待防止について職員一人一人が意識し援助している。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和元年12月の勉強会以来、実施しておらず、職員の入れ替えもあり、近々勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。質問にも丁寧に対応している。細かい変更なども事務所からの書面、電話、来訪時やお便りでお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望で、ヤクルトやハミンを個人購入している。要望に応じ、金銭面も配慮し安価の物を提供したり、ご家族の要望で始めた訪問マッサージや訪問歯科の口腔ケアは、コロナ禍の中、再度要望を確認し、回数を減らしたり中止する対応をしている。ご家族や入居者様の意見は、申し送りや支援経過に記載し職員間で情報を共有して検討している。又、入居者様昼食時のお寿司の提供は、継続している。	感染症流行の状況を見極め、家族と相談しながら訪問歯科の口腔ケアや訪問マッサージの回数を調整し可能な限り対応している。本人とは電話やオンラインで話し合い、また流行が少ない時期にはガラス越しに会えるように配慮している。毎月、利用者ごとに通信を送り、暮らしの様子も伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、CM、事務員はミーティングやユニットの懇親会、日常会話の中から、いつでも意見を聞き、相談できるようにしている。	ユニット会議、カンファレンス、勉強会などで意見を交換している。本人の負担軽減も含めて検討し、リクライニング式入浴補助用具を購入している。代表者は職員が業務の役割分担で自主的に関われるよう職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が資格取得など、よりレベルアップや向上心が持てるよう、研修会参加の為に休日確保及び、役職への促しにつなげているが、今年はコロナの影響で研修案内が無く、ユニット内での勉強会のみになっている。今年も介護福祉士を目指し、実務者研修、初任者研修を受けている職員がいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を流し研修が受けやすいようにしているが、今年は案内が無かった。又、職員一人一人の力量を見極めながらスキルアップできるよう研修受講の誘導をしており、ミーティング時に研修報告をする事で、再度研修内容の確認を行っている。初任者研修、実務者研修を受講するための奨学金制度も行っており、今年は数名、資格所得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回あるグループホーム協議会の交流会、グループホーム協議会主催の研修、相互訪問、全てコロナの影響で行われていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通して、生い立ちや要望などを聞き取り、不安が軽減できるよう努めている。又、少しでも早く信頼関係を築き、安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や面談時、契約時にご家族から情報や要望を伺っている。又、普段の様子を面会時や電話で報告し、その際にも要望を伺い、助言も頂いてご家族との信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談、面談の際に望んでいる事や困っていることを伺いながら、医療体制、医療機関も含めケアプランに反映して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人とコミュニケーションをとり、昔からの言い伝えや、昔の暮らしを教わる事がある。廊下をウォーキングされる方と、話をしながら一緒に歩くことや、お手伝いをお願いする事で、共に支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎週自宅に外泊する方や、家族と昼食を食べに出かけたり、昼食持参で面会に来られる方、夏祭りやイベントと一緒に参加して頂いたりご家族の協力は多い。面会が思うようにできなくなってからも、オンライン面会、ガラス越しの面会、お手紙などで協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会は多く、他施設に入居されている奥様への面会や、1週間程自宅に外泊する方もいた。コロナ禍で今はご家族からの電話で会話をさせている。電話の際、近況報告を密に行い、ご家族との関係を繋げられるよう努めている。	感染症流行から外部者の来訪はないが、電話などで交流している。タブレットでドラマを観たり、新聞を読み、晩酌を楽しむなど、過ごしてきた習慣や趣味、嗜好など個別の思いに沿って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格や特徴を把握し、入居者様同士で会話したり、レクでは隣の方の歌詞カードをめぐって下さる方もいて、互いに楽しい時間を過ごしたり、助け合えるように間を取り持ち支援している。聞き通れない言葉を通訳して下さったり、体調が悪い方を気遣ってくれる事も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良により退居した入居者様家族への退居に至るまでの経過など情報提供を行っている。亡くなった方の葬儀にも参列させて頂いていた。コロナ禍で面会ができないことで自宅に戻られた方々の電話相談等の対応もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大事にして、工夫をしながら対応を行っている。食事の面でも、パンが嫌いな方には、パンの日でもご飯を提供したり、肉を食べられない方に魚を提供している。本人の要望で、晩酌の支援も行っている。生活の意向について傾聴し、ユニット行事などに反映されるよう工夫している。	会話や普段の様子から意向を汲み取り、可能な限りケアにつなげている。以前にはセンター方式アセスメント表を活用していたが、現在使用している課題分析表に趣味や嗜好、過ごしてきた習慣の項目を加えて記録でも共有できるように考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人のこれまでの趣味や嗜好をご家族から情報を頂きながら把握し、入居者様とのコミュニケーションを大切に時間を有効利用し、会話時間を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、残存機能を見極め、心身の変化には柔軟な対応を心がけ、可能な事を最大限発揮して頂けるよう、支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、看護師、ご家族と情報を共有し、月に一度のカンファレンスや変化がある時はその都度話し合いの時間をもち、介護計画の見直しをしている。	モニタリング評価を3か月期間で行い、状態が安定している時は6か月ごとに見直している。モニタリング表をもとにカンファレンスで意見を交換し介護計画を作成している。わかる利用者には内容を説明し話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の実践を明確に記録し、重要部分には赤ラインを引くことで、申し送りでも分かりやすく活用できるように工夫し、気づきや情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望から、毎週ヤクルト販売に来てもらい、他の方も利用している。コロナの状況を見ながら本人やご家族の要望で、訪問マッサージや訪問歯科で口腔ケアを行ったり、毎週家に連れて帰りたいという要望に応え、外泊支援も行っている。コロナで面会ができなくなり、退居させたいとの家族の要望にも応え、在宅のケアマネと連携して退居の支援を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域ボランティアによる行事の参加や、消防による避難訓練など、地域住民として活動参加ができるよう支援しているが、今年はコロナ禍で行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している方もおり、慣れ親しんだ医療を受けられるよう支援している。又、必要な医療の追加がある場合は、迅速に受けられるよう支援している。	内科、また必要な方には泌尿器科の訪問診療を受けている。他科受診は家族に確認し事業所に対応している。主治医に相談し、薬の処方感染症予防のため調剤薬局の郵送で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身状態の気付きや情報は個人記録に書き残し、報告、相談している。また、月の受診スケジュールも、職員間でも共有している。コロナ禍の為、かかりつけ医と連絡を密に取り、受診を控えお薬だけの対応をして頂くなどの協力を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院にアセスメントなどの情報提供を行っている。介護職員としては、情報を看護師やケアマネに伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、ご家族から終末期の意向を伺い、できる事の説明を行っている。。又、月に1度のユニットミーティングで話し合いながら、必要に合わせ看取りケアの確認をして取り組んでいる。	重度化対応指針、また継続的な医療行為がない場合は看取りも可能であることを説明している。現在も数名の看取りを行っており、主治医や法人職員の看護師の下で学びながら看取りケアや看取り後の振り返りを行い職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の避難訓練で、救命救急、AED講習を受けている。今年はコロナの影響で消防の方が来る避難訓練、全体での訓練は行えなかったが、各ユニットで訓練を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練で、消防の方から指導を受け、地域住民の方にも参加して頂き、意見を出して頂いているが、今年はコロナの影響でできなかった。	今年度は火元責任者を中心に検討し、各ユニットで災害時の対応を確認している。夜間の火災想定や、地震時のケア別対応、また停電時などの備蓄品も含めて意見を交換し災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様をお客様と捉え、立場を考えその方に合った言葉かけをするよう心掛けている。	職員は接遇研修で習得し、高齢者の尊厳を重視した思いやりのある言葉遣いをしている。個人名が書かれた書類は目につかないよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が、今何を思っているか耳を傾け、話の本質をくみ取るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂の時間など、すべての希望に沿える事はできないが、起きられない時は、食事を遅らせて提供する等、一人一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に沿うように心がけ、衣類などに気を使い、汚れたらすぐ交換するようになっている。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響で外食ができなくなっているが、ユニット行事で、お寿司等の提供やどら焼き作りを実施し、楽しんで頂いている。又、おしぼりたたみや食器拭き、もやしの芽取りなどをお願いしている。	彩りの良い旬のもので出される日頃の献立の他にも毎月お楽しみとして鮭やトンカツなどを提供している。どら焼きやたこ焼きを利用者と一緒に調理している。食器拭きや芋の皮むきを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日記録し、食事が低下している方は、栄養補助食品を提供したり、状態や好みに応じてお粥やおにぎりなど食事形態を変えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態に応じて口腔ケア誘導を行っている。又、訪問診療での口腔ケアもコロナの状況を見ながら、受けている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄が可能な方は、定期的なトイレ誘導で失敗を減らし、布パンツを使用している。	個人記録に排泄の記録をし、必要に応じて時間を確認しながらトイレに誘導している。利用者の体調により排泄用品の使用を変えて、リハビリパンツだけではなく、布パンツとパットで過ごせるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送りで、排便の報告を行い、相談しながら下剤や整腸剤で調整している。朝牛乳を提供したり、毎食食事にはバナナヨーグルトなどを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援を行っているが、拒否されたり、体調不良の時は、日を変えて本人が納得される日に入浴して頂いている。	入浴中は楽しめるように職員とお喋りをしている。シャワーチェアでの座位が保てなくなった利用者にはリクライニング式のシャワーチェアで入浴ができるよう支援をしている。どうしても入浴の苦手な利用者には清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人に確認し、日中でも居眠りされている場合などは、自室で休んで頂いている。又、リビングにソファがあり、気軽に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の処方箋で、用法、目的などを理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調などを考慮しながら、お手伝いをお願いしている。歌を歌ったり、天気が良く暖かい日は散歩などを行っている。ビンゴゲームなどをすることもある。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で向かいの公園へ行くことくらいしかできず、花見や昼食外出、買い物などはできなかった。家族の強い要望があり、自宅外泊される入居者様があった。	若竹公園まで散歩をしてシャボン玉を飛ばしたり、ベンチに腰掛けアイスクリームを食べることもある。事業所前で日光浴をしている。受診の往復で景色や季節の花を見るなど、外出の自粛要請中であつても可能な外出を検討して実現している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もおり、買い物や床屋代は、自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の橋渡しをしている。今年はコロナ禍で面会が規制されていた為、オンライン面会を利用して頂いた。手紙の協力も頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁紙作りを行い、季節を感じてもらっている。窓からは日本海を眺めたり、朝日や夜の車のライトで心地よさを感じて頂けると思われる。	共有空間に雑飾りがあり、利用者の和の場となっている。ソファに腰掛けテレビを見たり職員と会話をしている。体操や卓球、ボーリングゲーム、魚釣りゲームなど楽しみごとができる場となっている。エアコン、扇風機、空気清浄機があり空調管理の整った温かな雰囲気が感じられる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の位置を変える等、利用者様同士が居心地よく過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、使い慣れていたものを持ってきて頂き、継続して使ってもらっている。	自宅で使い慣れた椅子やタンス、テレビ、冷蔵庫、仏壇を置いて、壁には家族の写真や趣味の絵などが貼ってある。自分の大切な馴染みの物を傍に置き、安心して暮らしている。新聞を購読したり、タブレットでビデオを見ている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に職員が見守りを行っている。新聞やタオルたたみ、食器拭き等、できる事を積極的に行ってもらっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館 第2ユニット		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	令和3年2月8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度の方が多くなっており、常に体調の変化に気を配り、職員間で情報を共有して、安定した体調を維持できるよう支援している。
又、外出も中々できなくなっているが、ご家族の協力も多く、少しでも楽しいと感じ穏やかに暮らして頂けるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JivvosvoCd=0172000887-00&ServiceCd=320
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年3月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアを心がけ、各自実践している。理念は、目につく場所(ユニット入り口)に提示している。名刺の裏にも明示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや避難訓練の案内の配布などで、地域とのかかわりを深めているが、今年はコロナの影響で入らず、少ないながらもヤクルトの訪問販売の受け入れのみ外での受け渡して継続して行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	明峰高校の体験学習の受け入れ、運営推進委員会、避難訓練、夏祭りなどを、認知症の方への知見を深めて頂けるよう実施しているが、今年はコロナの影響で行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年1月に、運営推進会議を行ったが、その後は会議を行う事ができず、不定期だが年6回、取り組み、状況等を資料にまとめ、委員の方々に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の代表が、小樽市のグループホーム協議会の会長を務め、市町村担当との情報交換をしていた。又、新しい入居者様の情報提供に協力を頂き、連携を取り合っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会を中心に身体拘束のないケアについて話し合い、実践しており、身体拘束はしていない。介護サービスマニュアル内に、身体拘束廃止に係わる項目があり、いつでも閲覧できるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護委員会で、各ユニットの問題を持ち寄り話し合い、ミーティング時に、権利擁護委員より虐待につながる内容についての注意があり、虐待のないケアについて話し合い実践している。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業との違いについて、R2年に勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い、不明部分がないよう質問などに答えており、理解・納得の上でサインを頂いている。変更なども、事務所からの電話、書面等でお知らせしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ココアやヤクルトなど、利用者様の要望がある時は、ご家族に相談し、購入、提供している。ご家族の要望で始めた訪問マッサージ、訪問歯科の口腔ケアもコロナの状況を見て、都度ご家族の要望を確認しながら続けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年はコロナの影響で懇親会は行えなかったが、ユニットミーティングや日常会話の中で、いつでも意見や相談ができるようにしている。今年は、シャワーチェアでの入浴が難しくなってきた方の相談をして、リクライニングシャワーチェアを購入してもらった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が資格取得など、スキルアップや向上心が持てるよう、研修会参加のための勤務調整を都度行っている。今年はコロナの影響で研修会はなかった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修はない状況が続いているが、一人ひとりスキルアップできるようミーティングで勉強会を行っている。初任者研修、及び介護福祉実務者研修の費用を奨学金制度を導入し、利用している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問、年に2回のグループホーム協議会交流会に参加したり、毎月のグループホーム協議会主催の研修会参加でスキルアップを図っているが、今年はコロナの影響でできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時の慣れない環境に身を置かれている利用者様の要望などに耳を傾け、少しでも不安を軽減できるように努めている。会話から、入居前に好きだったことや生い立ちなどを把握し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時等にご家族から情報や質問、要望等を伺い、入居後の近況報告を行いながら、ご家族とも信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時や面談時に、困っている事を聞きながら、医療も含めケアプランに反映して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を見極めながら、ご本人の了承のもと、新聞たたみやおしぼりたたみ、もやしの芽取り等を手伝って頂いたり、歌を一緒に歌ったりして、暮らしを共にする関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会や通院同行ができなくなっているが、電話で近況報告をしたり、毎週電話を下さり、ご本人とお話をされる方もおり、共に本人を支える関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に通ったり、通院帰りにスーパーやコンビニで買い物をする利用者様もいたが、年々できなくなってきている。ご家族の面会は多いが、コロナ禍で面会も規制されており、近況報告をまめに言うようにして、ご家族との関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話は少ないが、職員も邪魔をしない程度に介入して、利用者様同士が関わり合えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居された方も、その後亡くなったとの連絡を頂いており、ユニットで過ごされていた時の写真をお渡ししている。今年はできなかったが、葬儀にも参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	嫌いなメニューの時に、好みの肉まんや牛丼などを提供している。タブレットを所有されている方もいる。帰宅願望がある方は、短時間でも可能かご家族と相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やご家族の訪問時、電話等で情報を頂き、日々の会話に取り入れ引き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティング、及び毎日の申し送り状態で状態の変化を共有している。その方の活動の仕方によって午前中に休息を取る方、午後から休息をとる方、個別に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療、歯科、訪問マッサージ、看護師、ご家族、ご本人に関わるすべての関係者から情報を集め、本人にとってより良いケアを提供できる様、月1回のミーティングで意見を出し合い、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の様子や出来事、実践を記録し、大事な部分には赤線を引き、支援経過も含み情報を共有して介護計画見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の要望に応じて、訪問マッサージや訪問歯科での口腔ケアなど、その時のニーズに合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年行っている、地域の協力を頂きながらの避難訓練等は、コロナの影響で行う事ができず、グループホーム内のみで行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に繋がっている方が半数近い。その方の心身状態や、些細な疑問などもかかりつけ医に相談し、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師も含めた朝の申し送りで、利用者の身体状況を報告し、指示をもらっている。又、状況に合わせて、かかりつけ医に連絡をし、薬の相談、受診などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に近況の健康チェック表、アセスメントのADLなどの情報提供をしている。入院後は、週1回程度の面会や病院とのやり取りで情報を把握し、できるだけ早期に退院をできるよう対応している。介護職員としては、直接病院と関わる事は無いが、ケアマネを通して情報を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向を伺い、説明をしているが、都度、状態に合わせてご家族に確認もしている。現在、3名の方の看取りを実施。他の方も身体状態の変化で、終末期を迎えた時には、ご家族、主治医と支援の方向性を話し合っていく。ミーティングにて、職員全員で必要に応じたケアを確認し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練で、消防の方からADLや救命救急訓練の指導を受けている。今年はコロナの影響で受けられなかったので、昨年の資料を見返すよう心掛けている。「異常時発生時の対応」「緊急時119番通報マニュアル」を職員の見やすいところに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で消防の方の指導を受け、地域住民の方にも参加して頂き、意見も頂戴して協力体制を整えているが、今年は、消防の方も地域住民の方にも来ていただく事ができず、各ユニットでの避難訓練のみ行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を把握し、人格を尊重して入居者様の立場で考え、その方に合わせた言葉をかけるよう心掛けている。身体介護の重い方も多く、声掛けをしながら介助するよう心掛けている。又言葉がきつい時もあり、職員間で話し合い注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい方が多いが、入居者様の言葉に耳を傾け、声掛けや質問の仕方を工夫し自己決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望に添える事はできないが、身体状況を含め、その方のペースや要望にできる限り添えるよう、日々の生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎回同じような服装にならぬよう気を使っている、通院時や外出時は、綺麗な洋服で出かけて頂くよう支援している。ご自分のこだわりで同じ衣類を着る方には、定期的に好きそうな衣類を代理購入している。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット行事で、ミニオードブル、寿司や海鮮丼、手作りのどら焼きなどを提供し、少しでも楽しく満足できる時間が過ごせるよう心掛けている。できる方には、おしぼりたたみ、もやしの芽取りをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日記録し、個々の状態に合わせて、ミキサー食のシリンジでの介助や、刻み、トロミ食の提供、状態により介助を行っている。摂取量を確認し、少ない方は栄養補助食品、プリン、ゼリーなど、好きな食べ物、飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア研修で指導を受けながら、毎食後の口腔ケアを、入居者様の状態に合わせて行っている。又、数名の方はコロナの状況を見ながら訪問診療で、口腔ケアをお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の日々の状態から、パターンを見極め、個々に合わせ、時間を見て声掛け誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の申し送りで排便の報告を行い、NS指示のもと、下剤や整腸剤で調整し管理している。毎日、昼食にバナナヨーグルトも提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援を原則とし、拒否されたり体調不良時は日をずらし入浴して頂いている。毎日、陰部の清拭を行い、入れない日が続いた時は、全身清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居眠りをしている方は、夜間の安眠障害にならない様、配慮しながら、居室でゆっくり休んで頂くよう誘導している。夜間眠れない方には、リビングで過ごしてもらったりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が、利用者様の処方箋で用法・目的などを理解するよう努めている。一人一人の薬の種類などを壁に貼っている。薬の変更時は必ず申し送り、経過観察も行っている。服薬困難な方には、服薬ゼリーなどを使い工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体調を見極め、もやしの芽取り、タオルたたみ、新聞たたみ等のお手伝いをお願いしている。又、体操や発声を兼ねた歌やユニット行事では、風船バレーや旗上げゲーム等を行い楽しんでもらっている。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で少ないながらも、向かいの公園での花見や日光浴等、できる範囲で行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護度が重い方が多くなり、高齢という事もあって、お金を自己管理されている方はいなくなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や身内からの電話の取り次ぎや、電話をかけたいという要望にも応えている。又、送られてきた手紙を、本人の確認のもと、読み上げる支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁紙を変更したり、リビングの温度、湿度等に注意しながら、居心地よく過ごせるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全員車いすとなり、難しいながらも、食卓の席はできるだけ気の合う方を配慮しながら決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が日常的に使っていたものを使って頂いている。居室に思い出の写真やポスターを飾っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には入居者様の名前を貼りだし、トイレやお風呂も貼り紙をしてわかりやすくしている。転倒の危険がある方にはご家族、ご本人と相談、共に検討し鈴やセンサーの使用で、直ぐに訪室できるようにして転倒防止に努めている。。		

目標達成計画

事業所名 グループホームふきのとう東館

作成日：令和 3年 3月 19日

市町村受理日：令和 3年 3月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	現在使用している課題分析表には、趣味や嗜好、過ごしてきた習慣の情報が無いので、新たに項目を加え情報を共有できるようにした方が良い。	個々の入居者様の趣味、嗜好、習慣等の情報収集をできる限り行い、現在使用している課題分析15項目アセスメントに加え、情報を共有できるように改善する。	前任のケアマネが使っていたセンター方式のシートも参考に、15項目アセスメントの「15. その他」に加える、もしくは新たに項目を作り、一目でわかり情報共有できるように変更する。	令和3年度中
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。